

令和3年8月8日開催 全幼P新潟大会 記念講演

「大人も子どもも夢を叶えるために 今 私たちができること」

講師：糸魚川市教育相談員 横澤富士子さん（タレント横澤夏子さんの母）

横澤さんのお話は、手づくりパネルを使ってご自身の子育てエピソードや経験や糸魚川市の子育ての支援などを紹介しながら、とてもおもしろくて分かりやすい内容でした。レジュメがなかったので、横澤さんの講演を聴きながら取ったメモを基に、内容を大まかにまとめました。園長 新山裕之

人間の脳は3階建てと理解すると分かりやすい

脳の1階【脳幹】いわゆる爬虫類脳：生命の維持に関するところを司る部分

ここを育てるために大事なことは、早寝早起きおいしい朝ごはん

特に朝ごはんでは（タンパク質：卵、魚、肉、大豆など）が大事。これで脳の土台ができる

脳の2階【大脳辺縁系】いわゆる哺乳類脳：衝動的な感情を司る部分

心が育つ、人と仲良く過ごす

感情は大きく「喜び、悲しさ、怒り、恐怖」の4つに分けられる

特に目に見えないものが怖いという感情が一番厄介

※そこで心を育てるコツ：一旦はその気持ちを受け止めること、子どもの気持ちに寄り添う
読み取ろうとして、寄り添うこと

事例：夏子さんが2歳のとき、下の子を出産する際、夏子さんに言い聞かせずに産院に行ってしまった。若い親である当時は、夏子さんの身になって考えるゆとりがなかったおじいちゃんは、無理なものは無理だから我慢しろと端的に言い聞かせた。時には、このような感覚や対応も必要。母親には、子どもがかわいそうでそういうことができにくい。また、嫁の立ち位置は弱い。それは年をとっても変わらない。

脳の3階【大脳新皮質】いわゆる人間脳：論理的で未来的な思考を司る部分

大脳新皮質の働き＝人間らしさをぎっしり詰め込む高度な脳＝

考える、勉強、がまんする

コミュニケーション力＝相手の言葉や気持ちが分かること、分かろうとする姿勢が大事

遊びを通して育てたい

6歳までに家庭や園で、遊びを通して育てましょう。遊びはコミュニケーション力の土台でとても大事！

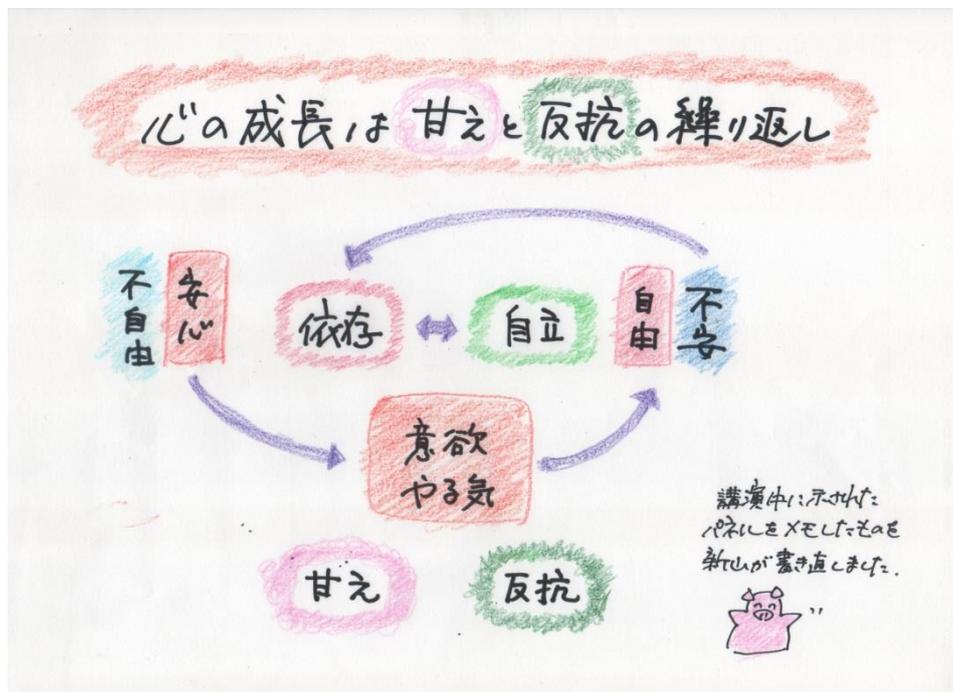
しつけは家庭で教えたい

教えるべきことは教えないと、経験していないことはできない。

自己肯定感が大事

自己肯定感は、自分自身でもっているもの。しかし、親が支えることが必要。

心の成長は甘えと反抗の繰り返し



- ・子どもは、まだできないことがあるから親に依存している
そのことで安心感が得られ、意欲やる気が出てくる
- ・安心できると自分からやってみようとして動けるようになる
自分は何でもできるような気になる
あれこれ構われると反抗する気持ちも出てくる
何でもできると思っているが、実際はうまくできないこともあり、不安も出てくる
- ・そこでまた頼れる（依存できる）場、母港を求める
でも、素直に甘えられるときばかりではない

愛着形成＝親と子の絆が大事

- ・抱っこして気持ちを受け止めて、どうにもならない気持ちを受け止めて、分かってあげようとしてくれたことで、気持ちを落ち着けることができると、自分で気持ちをコントロールすることができる。繰り返し。何度も言わなければならないが・・・。

※全幼Pの新潟大会の要項には、新しい全幼P会長の山崎さん、国公幼会長の箕輪先生の話、全国各地の幼稚園やこども園のPTAがコロナ禍でも工夫して実践した様子が提案発表として掲載されています。オンラインでの発表も分かりやすく、参考になる内容でした。当日は、全幼P前会長の猪木さんがコーディネーターとなり、オンラインでのパネルディスカッションもありました。

※PTAも、区・都・全国と横でつながる組織があり、それぞれの園長会と連携し、子どもの健やかな育ちのために様々な活動を行っています。行政とのやり取りの大事な窓口ともなっており、一つの園からの声では届かないことも、子どもたちへの熱い思いが集まる組織の声となることで、行政が動いてくれることも多いものです。毎年の区幼Pの総会には、区長や教育長、教育委員会幹部も出席してくれて、前年度の会長さんには感謝状が贈呈されます。PTAは、地域住民の大事な代表でもあるのです。